

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2019. 10.31 No.61

Japan Association of College and University  
Archives : Eastern Japan Division

## 目 次

- ・北田 建二「第 114 回研究会（帝国データバンク史料館）に参加して」…………… 1
- ・林 慎一郎「全国大学史資料協議会東日本部会 2019 年度総会に参加して」…………… 3
- ・阿久津朋子「平和祈念展示資料館を見学して」…………… 4
- ・全国大学史資料協議会東日本部会 2019 年度総会議事録…………… 6
- ・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録…………… 11
- ・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録…………… 16

2019 年 3 月 14 日（木）研究会

## 第 114 回研究会（帝国データバンク史料館）に参加して

東洋大学井上円了記念博物館 北田 建二

数年前、筆者は勤務先の博物館にて、東洋大学の卒業生で帝国データバンクの元社員の方と話をする機会を得た。このとき、帝国データバンク史料館のことが話題になったこともあり、いちど同館を訪ねてみようと思っていた。そして、今回、全国大学史資料協議会東日本部会の研究会が同館で開催されることとなり、年度末の会議の資料作成をそっこのけにして、参加することにした。

研究会では、最初に高津隆館長による「企

業博物館のこれまでとこれから」と題した講演が行われ、史料館の設立趣旨と経緯、開館後の取り組みについて話があった。

同館設立の端緒は、2000 年（平成 12）に帝国データバンクの創立 100 周年事業の一環として行われた社史の編纂・刊行であるという。その後、2003 年に社命で史料館開設準備室がつくられ、「企業ブランド向上」、「《実業道德の興隆》を支援、研究の推進」、「資料の散逸の防止」といった史料館の設立趣旨・

目的を明確化する作業が行われていった。

展示に関しては、「帝国データバンク（信用調査事業）の歴史と今後について」という展示テーマを設定し、「格調高く、しかし平明に」という考えのもと、映像の活用による分かりやすく、かつ双方向性（インタラクティブ）をもった展示が構想されたという。このことについて、講演後、実際に同館の映像展示を体験しながら、筆者は博物館学芸員として、その根底にある「格調高く、しかし平明に」という考えに強い共感を覚えた。

このほか、講演では社内の各部門で保管されている記録資料の受け入れや、保存資料データベースの構築、社外の研究者との協業など、同館の取り組みと現時点での課題について話があった。

講演後は、福田美波学芸員の解説のもと、展示室での見学が行われた。同館の常設展示は、各章の冒頭に映像を配しながら、一企業の通史を超えて、企業信用調査がどのようなものなのかが、その歴史とともに理解できる内容で、大変興味深かった。

企業博物館というと、ややもするとその企業の広報施設というイメージばかりで語られ



展示室見学の様子

てしまうところがある。確かに、同館も、展示などで帝国データバンクが行う信用調査事業の意義を社内外に知らしめる役回りを担っていることから、一営利企業の広報施設とみなすこともできよう。だが、それは同館の一面でしかない。今回の講演と見学を通して、歴史的資料の収集・保存・公開を行うアーカイヴズとしての側面や、社内外を問わず啓発と研究支援を行う教育施設としての側面について知ることができ、企業博物館に対する認識を深めることができた。設立主体が企業と大学という違いはあるが、同じく博物館という施設において資料の保存・公開を担う者として、自らの目的と意義を認識し、その役割を果たさんとする同館での見聞は、大いに刺激になった。

2019年5月30日(木) 全国大学史資料協議会東日本部会 2019年度総会

## 全国大学史資料協議会東日本部会 2019年度総会に参加して

個人会員 林 慎一郎

5月30日、全国大学史資料協議会東日本部会 2019年度総会が東京経済大学にて開催され、「大学史資料の活用と公開」を年間テーマとした本会の創立30周年記念事業を含む事業計画が承認された。顧みれば本会の発足は1988年、この「大学アーカイヴズ」が創刊されたのが昭和から平成に代わった1989年1月である。本会の歩みは平成とともにあったわけだが、その平成が幕を下ろし、令和時代が始まった。記念事業のうちの①記念講演・シンポジウム報告書の刊行、②ホームページでの「大学史資料所蔵機関紹介」ページの開設はすでに実施され、下半期には③記念展示の開催（立教学院展示館）が予定されているが、令和時代は大学史資料の「公開」が本格的・多角的に展開されていくと思われる。いくつかの大学で「ミュージアム」構想が具体化しているのもそうした機運の現われではないだろうか。本会のますますの発展に期待したい。

総会ののちに、東京経済大学名誉教授、公益財団法人大倉文化財団理事長の村上勝彦先



展示室見学の様子

生より「大倉喜八郎の商業学校創立への思い」と題しての記念講演が行われた。明治・大正期に200以上の企業の創設に関わり、三井、三菱、住友、安田に次ぐ財閥を築いた実業家の大倉喜八郎が、西洋諸国と並ぶ商業の知識・道徳を備える人材の育成をめざして創設したのが東京経済大学の前身である大倉商業学校であった。ほかにも大阪大倉商業学校、善隣商業学校を創立したほか多数の学校にも寄附を行ったというから、教育に対する情熱は並々ならぬものだったようだ。大倉は『心学先哲叢集』や『致富の鍵』など訓言や口述書を多数残しており、おかげで現代においても生き生きとその精神にふれることができる。

村上先生は、大倉喜八郎の商業学校創立のスピリットを、内地雑居への対応、近代的商業人の育成、アジアとの共生、という3つのポイントに整理して語られた。講演を通して感じたことは、大倉喜八郎が実に開明的な人物だったということだ。まだ列強に大きく遅れをとっていたあの時代にすでに世界で対等に商売することの重要性を認識し、まだ商売をいやしむ風潮のなか専門的知識、技術だけでなく倫理や道德面でも秀でた商業人を育成しようと尽力した、その先見の明には驚かされる。今日のグローバリズムや企業倫理の問題、アジア諸国の著しい成長などを大倉喜八郎は

お見通しだったのかもしれない。

私は本会の個人会員であるが、奇しくも私の属する会社（凸版印刷株式会社）も東京経済大学と同じ2020年が創立120周年である。しかし、企業とは異なり、大学にとっては創立者の存在がきわめて大きいことを痛感している。加速するデジタル化社会において、大学の資産ともいえる創立者精神や沿革、大学史資料等をいかに広く深く公開していくかという問題はますます重要になるであろう。それを実現するためには、いっそうの大学間連携や産官学連携が不可欠だと感じた次第である。

2019年7月4日(木) 研究会

## 平和祈念展示資料館を見学して

武蔵野美術大学 阿久津朋子

7月4日(木)、第115回研究会が平和祈念展示資料館で行われた。平和祈念展示資料館は、さきの大戦における「兵士」「戦後強制抑留者」「海外からの引揚者」の3つの労苦について、国民の理解を深めるために2000年11月に開館した施設である。

まず、資料館では2グループに分かれ、それぞれ解説者の説明を伺いながら見学した。

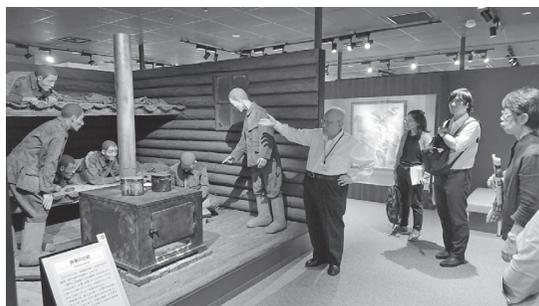
最初の「兵士コーナー」には体験者の証言を元にした入営時の様子、千人針や軍服などが展示されている。さらには臨時招集令状、いわゆる「赤紙」も展示されているのだが、赤紙は残っていること自体が珍しいという。赤紙には入隊日時、集合場所など、軍の動きが分かる機密事項が記載されていたため、入営時には回収され処分されるのが普通だった。

しかし、展示品は記載された時間の誤判読などにより、提供者の手元に偶然残ったのだという。

次の「戦後強制抑留コーナー」では、シベリアなどで抑留され、強制労働を強いられた人々が使っていた道具や収容所の模型、体験者の描いた絵画などが展示されていた。

その展示品の一つに、袖のない外套があった。それは持ち主が外套の袖とパンを、現地の労働者と交換したために袖がなくなったのだという。シベリアの気温はマイナス30～40度。外套を着ていても凍死してしまう者もいた寒さである。だが、その展示品によって、抑留者は寒さ以上に飢えに苦しんでいたことが分かる。配当される食事は少なく、粗悪なもので、栄養失調で亡くなる方も多かった。そのような極限状態の中で約57万5千人もの人々が様々な労働を課せられていたのである。

そして「海外からの引揚げコーナー」では、旧満州から日本へ帰るための引揚船の模型、船内での様子、引揚時に持っていたものが展示されている。夢や希望があると信じて満州に入植したはずが、大戦により多くの人が犠牲となった。無事に引揚船に乗船できた者で



史料館見学の様子

さえも途中で命を落とすことがあった過酷な帰路であった。

その中で、男の子が竹む一枚の写真がある。その子は満州で家族を失くし、自分を日本人だと証明してくれる人もおらず、引揚船が出る港に通っては、自分を知っている人を探す孤児である。日本にただ帰りたいただけなのだが、それさえも叶わない。あの時代、この写真の子のように、途方に暮れる人々がどれほどいたことか。

私たちは大学史を中心とする以上、戦争に関することは「学徒」について学んだり、調べたりすることが主になる。だが、時には今回のように大戦全体が人々にもたらした悲劇に立ち返る必要もあるのではないかと感じた研究会だった。

全国大学史資料協議会

東日本部会 2019 年度総会議事録

日 時 2019 年 5 月 30 日 (木)  
 14 時 00 分～ 14 時 50 分  
 会 場 東京経済大学国分寺キャンパス  
 大倉喜八郎進一層館ホール  
 (FORWARD HALL)  
 (所在地) 東京都国分寺市南町 1-7-34

[部会総会の成立]

\* 現会員数と出欠状況

	総計	出席	欠席届
機関会員	67	32	21
個人会員	33	4	11
総 計	100	36	32

\* 総会定足数は、機関会員 67、個人会員 33 の総計 100 の過半数 50 である。

\* 部会規約第 11 条第 5 項に基づき、欠席届を委任状とするため、出席会員数 (36) と欠席届提出会員数 (32) の合計は 68 となり、部会総会は成立した。

[出席会員]

青山学院 跡見学園女子大学  
 お茶の水女子大学 学習院 神奈川大学  
 國學院大學 国際基督教大学 国士館  
 淑徳大学 上智大学 女子美術大学  
 専修大学 大東文化大学 拓殖大学  
 中央大学 帝京大学 東海大学  
 東京経済大学 東京農業大学 東北学院  
 東洋英和女学院 富山大学 日本女子大学  
 日本大学 武蔵学園 武蔵野美術大学  
 明治学院 明星大学 立教学院 立教大学

立正大学 早稲田大学

(出席者合計 53 名)

[配付資料]

1. 総会次第
2. 2019 年度総会参加者一覧
3. 2018 年度事業報告書
4. 2018 年度収支決算書
5. 2018 年度貸借対照表・監査結果
6. 2019 年度事業計画書 (案)
7. 東日本部会創立 30 周年記念展示について
8. 2019 年度収支予算書 (案)
9. 東日本部会創立 30 周年記念事業関連経費内訳
10. 東日本部会会員名簿

開会の挨拶 瀬戸口 龍一氏

(専修大学大学史資料室)

※会長校(明治大学)欠席のため

議長の選出 議 長 畑川 直哉氏

(東京農業大学図書館事務課)

副議長 松本 郁子氏

(東洋英和女学院史料室)

議 事 1. 2018 年度事業報告・同決算報告について

事務局(日本大学)から、配布資料「2018 年度事業報告書」に基づいて昨年度の事業報告があった。また会計委員(東海大学)より配布資料「2018 年度収支決算書」(7 頁【表 1】)に基づいて昨年度の収支決算報告があった。いずれも満場一致で承認された。

【表 1】

## 全国大学史資料協議会東日本部会

## 2018 年度収支決算書

2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

## 【収 入】

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会費収入	1,500,000	1,495,000	5,000	
法人等会員	1,340,000	1,340,000	0	67 機関分× 20,000 円
個人会員	160,000	155,000	5,000	31 名分× 5,000 円(※個人会員 2 名(3 口分) 滞納)
利息収入	1,000	53	947	
預貯金利息	1,000	53	947	預金利息
参加費収入	395,000	459,000	△ 64,000	
部会総会参加費	195,000	219,000	△ 24,000	73 名分× 3,000 円 (5 月 31 日 國學院大學)
全国総会参加費	200,000	240,000	△ 40,000	48 名分× 5,000 円 (10 月 10 日～12 日 九州大学)
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
30 周年記念事業積立金繰入収入	2,500,000	2,500,000	0	
30 周年記念事業積立金繰入収入	2,500,000	2,500,000	0	
合 計	4,396,000	4,454,053	△ 58,053	

## 【支 出】

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
運営費支出	50,000	13,517	36,483	
総会費	20,000	0	20,000	
幹事会費	10,000	0	10,000	
部会研究会費	20,000	13,517	6,483	施設利用料(研究会・東京芸術大学)等
謝礼支出	80,000	47,959	32,041	
講師謝礼等	80,000	47,959	32,041	講演謝金、同源泉所得税
消耗品費支出	10,000	2,279	7,721	
消耗品費	10,000	2,279	7,721	事務用品代等
印刷費支出	500,000	327,240	172,760	
印刷費支出	500,000	327,240	172,760	会報 No.58(前年度未払分)、No.59 印刷費、発送用角 2 封筒印刷費(※会報 No.60 印刷費は次年度へ繰越)
通信費支出	180,000	160,617	19,383	
事務連絡費	180,000	160,617	19,383	会員連絡費、会報発送費(前年度 No.58 未払分および今年度 No.59 分) 通信物切手料金等(※会報 No.60 発送費は次年度へ繰越)
手数料支出	10,000	4,428	5,572	
手数料等	10,000	4,428	5,572	金融機関送金手数料他
参加費支出	550,000	520,071	29,929	
総会参加費	550,000	520,071	29,929	部会情報交換会費、全国総会分担金(※東日本分担金 289,671 円)等
旅費交通費支出	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	2,850,000	468,311	2,381,689	
出版事業	250,000	216,013	33,987	研究叢書 19 号(※西日本分担金 99,798 円)、全国総会記録反訳料他
その他	0	0	0	
ホームページ事業	100,000	93,208	6,792	ウェブサイト契約料(※西日本分担金 78,143 円)、バックアップ HD 代金等
30 周年記念事業	2,500,000	159,090	2,340,910	チラシ印刷費、同発送費等(※残額は 2019 年度事業費に繰入)
ホームページ改善積立金	200,000	200,000	0	
30 周年記念事業積立金繰入支出	0	0	0	
予備費	50,000	0	50,000	
合 計	4,480,000	1,744,422	2,735,578	
当年度収支差額	△ 84,000	2,709,631	—	
前年度繰越収支差額	2,959,404	2,959,404	—	
翌年度繰越収支差額	2,875,404	5,669,035	—	

【表 2】

2018 年度貸借対照表

2019 年 3 月 31 日

【資 産】

(単位：円)

項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
30 周年記念事業積立金	0	2,500,000	△ 2,500,000	
三井住友銀行	0	2,500,000	△ 2,500,000	三井住友銀行 経堂支店普通預金
ホームページ改善積立金	600,000	400,000	200,000	
三井住友銀行	600,000	400,000	200,000	三井住友銀行 経堂支店普通預金
銀行預金	5,622,424	2,907,153	2,715,271	
三井住友銀行	5,622,424	2,907,153	2,715,271	三井住友銀行 経堂支店普通預金
現金	46,611	52,251	△ 5,640	
事務局校	21,685	21,685	0	立教学院
事務局校	0	11,924	△ 11,924	専修大学
前会計校	0	18,642	△ 18,642	法政大学
会計校	24,926	0	24,926	東海大学
合 計	6,269,035	5,859,404	409,631	

【負債・収支差額】

(単位：円)

項 目	本年度末	前年度末	増 減	摘 要
負債	600,000	2,900,000	△ 2,300,000	
30 周年記念事業引当金	0	2,500,000	△ 2,500,000	
ホームページ改善引当金	600,000	400,000	200,000	
収支差額	5,669,035	2,959,404	2,709,631	
収 支 差 額	5,669,035	2,959,404	2,709,631	
合 計	6,269,035	5,859,404	409,631	

2019 年 4 月 1 日

上記の通り報告します。

会計委員 東海大学 椿田 卓士 ㊟

神奈川大学 齊藤 研也 ㊟

神奈川大学 大坪 潤子 ㊟

2019 年 4 月 19 日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 専修大学 瀬戸口龍一 ㊟

学 習 院 桑尾光太郎 ㊟

【表 3】

全国大学史資料協議会東日本部会  
2019 年度収支予算書（案）  
2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

【収 入】

(単位：円)

項 目	2019 年度予算	2018 年度予算	増 減	摘 要
会費収入	1,520,000	1,500,000	20,000	
法人等会員	1,340,000	1,340,000	0	67 機関 @20,000 円 (2018 年度は 67 機関)
個人会員	180,000	160,000	20,000	33 名 @5,000 円 (他、2018 年度滞納者 2 名・2017 年度滞納者 1 名分)
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息
参加費収入	470,000	395,000	75,000	
部会総会参加費	195,000	195,000	0	65 名 @3,000 円 (2019 年度は東経大) ※ 2018 年度は國學院大 73 名
全国総会参加費	275,000	200,000	75,000	55 名 @5,000 円 (2019 年度は立教大) ※ 2018 年度は九州大 48 名
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
30 周年記念事業 積立金繰入収入	0	2,500,000	△ 2,500,000	
30 周年記念事業 積立金繰入収入	0	2,500,000	△ 2,500,000	30 周年記念事業積立金の繰入分
合 計	1,991,000	4,396,000	△ 2,405,000	

【支 出】

(単位：円)

項 目	2019 年度予算	2018 年度予算	増 減	摘 要
運営費支出	50,000	50,000	0	
総会費	20,000	20,000	0	会場費・設備使用料、非課税交通費他
幹事会費	10,000	10,000	0	会場費・設備使用料他
部会研究会費	20,000	20,000	0	会場費・入場料・飲料代他
謝礼支出	80,000	80,000	0	
講師謝礼等	80,000	80,000	0	講演料・原稿料・源泉税・課税交通費
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	500,000	500,000	0	
印刷費支出	500,000	500,000	0	会報印刷費(前年度分 No.60 および No.61・No.62 年 3 回分)
通信費支出	180,000	180,000	0	
事務連絡費	180,000	180,000	0	会員連絡費、会報送料(前年度分 No.60 および No.61・No.62 年 3 回分)
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他
参加費支出	550,000	550,000	0	
総会参加費	550,000	550,000	0	情報交換会費その他(5月部会総会、10月全国総会)
旅費交通費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	2,690,910	2,850,000	△ 159,090	
出版事業	250,000	250,000	0	叢書 20 号印刷費(東日本部会分担金)、その他
その他	0	0	0	
ホームページ事業	100,000	100,000	0	維持管理金
30 周年記念事業	2,340,910	2,500,000	△ 159,090	積立金の内前年度繰越分、記念展示・記念報告書・WEB リニューアル費用等
ホームページ改善積立金	0	200,000	△ 200,000	ホームページのバージョンアップ・機能追加臨時経費
30 周年記念事業 積立金繰入支出	0	0	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合 計	4,120,910	4,480,000	△ 359,090	
当年度収支差額	△ 2,129,910	△ 84,000	—	
前年度繰越収支差額	2,160,346	2,244,346	—	
翌年度繰越収支差額	30,436	2,160,346	—	

【表 4】

30周年記念事業関連経費内訳（2019.03.31 現在執行済みのもの）

※ 2010年度より2014年度まで毎年度500,000円ずつ積立。

（単位：円）

(2018.5.31 総会において積立金の予算繰入が承認された金額)	計	2,500,000	※30周年記念事業積立金
------------------------------------	---	-----------	--------------

経費内訳

収入	(大費目)	(小費目)	内 容	金額	備考
	30周年事業費	展示事業費	記念展示「(仮題) 全国大学史展」(2019.10 開催予定) 諸経費等	1,100,000	※制作費・作業費等
	30周年事業費	ホームページ事業費	会員機関紹介サイトリニューアル費等	600,000	
	30周年事業費	出版事業費	記念講演・シンポジウムの記録報告書(A5判、300部) 制作費等	500,000	
	30周年事業費	その他	チラシ印刷・発送費、記念事業関連謝礼等、振込手数料、関連事務連絡費等	300,000	

2018年度執行分支出内訳

支出	(大費目)	(小費目)	内 容	金額	備考	証憑No.
2018.05.08	30周年事業費	その他 (印刷費)	30周年記念講演会チラシ(ジー・ブロード)	46,440		5
2018.05.08	30周年事業費	その他 (手数料)	30周年記念講演会チラシ(ジー・ブロード) ※振込手数料分	432		5
2018.05.30	30周年事業費	その他 (講師謝礼等)	荒川章二氏記念講演謝金(のため引き出し)	30,000		9
2018.05.31	30周年事業費	その他 (講師謝礼等)	記念会場支援の國學院学生への謝礼 (クオカード2,000円×5)	10,000		44
2018.06.04	30周年事業費	その他 (講師謝礼等)	荒川章二氏記念講演交通費 (振込)	16,580		11
2018.06.04	30周年事業費	その他 (手数料)	荒川章二氏記念講演交通費 (振込) ※振込手数料分	216		11
2018.08.27	30周年事業費	出版事業費	30周年記念講演会・シンポジウムテープ 起こし (反訳代、IP パートナース)	37,584		16
2018.08.27	30周年事業費	その他 (手数料)	30周年記念講演会・シンポジウムテープ 起こし (反訳代、IP パートナース) ※振込手数料分	432		16
2018.04.27	30周年事業費	その他 (事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用レターパック ライト (4点) 購入代	1,440		32
2018.04.27	30周年事業費	その他 (事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用切手代 (140円×25枚、250円分×13枚)	6,750		33
2018.04.27	30周年事業費	その他 (事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用切手代 (宅急便、 会報とともに送付する分を印刷所へ)	1,261		34
2018.05.07	30周年事業費	その他 (事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用切手代 (140円×1枚)	140		35
2018.05.11	30周年事業費	その他 (事務連絡費)	記念講演会チラシ送付用切手代 (140円×1枚)	140		36
2018.05.30	30周年事業費	その他 (消耗品費)	芳名帳と筆ペン代 (記念講演会受付用)	1,070		38
2018.06.01	30周年事業費	その他 (消耗品費)	記念シンポジウムパネリスト飲料×8本 (@100) ※自販機購入のため証憑無し (会計承認済み)	800		41
2018.05.30	30周年事業費	その他 (印刷費)	記念講演会・シンポジウム資料コピー代 ※専修大学立替分	4,320		42
2018.05.30	30周年事業費	その他 (消耗品費)	記念講演会・シンポジウム資料紙代 ※専修大学立替分	1,485		43
<b>2018年度支出小計</b>				<b>159,090</b>		

2. 2018年度監査報告について

監査委員（学習院）より決算が適正であった旨の監査報告（8頁【表2】）があり、同報告については満場一致で承認された。

3. 2019年度事業計画・同予算案について

事務局（日本大学）より、配付資料「2019年度事業計画書（案）」に基づいて、本年度事業計画案の説明があった。審議の結果、本年度計画案は原案通り満場一致で承認された。

4. 東日本部会創立30周年記念展示について

記念事業ワーキンググループ（日本大学）より、本年度事業計画案が承認されたことに関連して、創立30周年記念事業の一つである記念展示の企画について説明があり、審議の結果満場一致で承認された。

5. 2019年度予算案について

会計委員（東海大学）より配布資料「2019年度収支予算書（案）」（9頁【表3】）に基づいて本年度予算案の説明がなされ、審議の結果両案とも原案通り満場一致で承認された。

6. 東日本部会創立30周年記念事業関連経費について

記念事業ワーキンググループ（東海大学）より、配布資料「30

周年記念事業関連経費内訳」（10頁【表4】）に基づいて、記念事業経費の財務状況について説明があり、同報告については満場一致で承認された。

閉会の挨拶 阿久津 朋子氏

（武蔵野美術大学大学史史料室）

〔概要〕 2019年度東日本部会総会では、副会長校挨拶による開会挨拶に続いて、議長および副議長の選出がなされた。議題については、例年通り前年度2018年度の事業報告および決算報告があり、監査報告を含めて各会員に諮られ、支障無く承認された。続いて、2019年度事業計画および予算案について説明がなされ、満場一致で承認された。さらに、①昨年度開催の「創立30周年記念講演会・シンポジウム」および記録集の制作②「会員情報ページ」の構築、に続く創立30周年記念事業の一つである、東日本部会と立教学院展示館の共同主催による展示会開催企画についての説明がなされ、展示の趣旨や概要・費用について審議された結果、原案通り満場一致で承認された。

（椿田卓士）

全国大学史資料協議会

東日本部会幹事会議事録

第180回 2019年3月14日（木）

13時30分～14時15分

会場 帝国データバンク史料館

8階会議室

出席 学習院 神奈川大学 國學院大學

淑徳大学 専修大学 帝京大学

東海大学 東京経済大学 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学

立教学院

古俣達郎

議題 (1) 2018年度・2019年度研究会  
について

- ・3月研究会担当(國學院大學)より、本日研究会のタイムスケジュールが確認された。
- ・7月研究会担当(武蔵野美術大学)より、平和祈念展示資料館での見学を交渉中であることが報告された。
- ・2019年度年間テーマは、仮に「大学史資料の活用と公開」とし、次回幹事会までに各自で検討することとなった。

(2) 2019年度東日本部会総会について

- ・事務局(日本大学)より、総会担当(大東文化大学)が作成した当日のタイムスケジュールについて報告された(総会担当・大東)。幹事会の開始時間を15分早め、総会の受付時間を30分確保することに決定した。

(3) 2019年度全国研究会について

- ・全国研究会テーマについては、新制大学に関する展示と連動した

テーマとすることとなり、記念事業検討ワーキンググループで引き続き検討することとなった。

(4) 創立30周年記念事業について

- ・事務局(日本大学)より、幹事会の前に開催された創立30周年記念事業検討ワーキンググループの内容について報告があった。
- ・30周年記念シンポジウム報告書については、A5判で70頁程度の分量となる予定で、部会総会当日に配付できるように進めていく。
- ・ホームページ上における会員校の紹介については、会員紹介のテストページが完成し、現在会員へ校正依頼中である。校正締切は3月末日で、部会総会までに完成するように進めていく。
- ・企画展については、担当(立教大学)より構成案が示された。部会総会で企画展開催の承認と会員校への所蔵資料アンケート依頼を行うため、ワーキンググループ内で展示項目ごとに担当を決めることとなった。次回までに担当者を選定して、展示業務を進めていく。
- ・会計校(東海大学)より、30周年記念事業の関連経費内訳表が示された。30周年記念事業積立金の具体的な用途内訳が示されており、部会総会で30周年記念事業の説明の際に用いることが確認された。

(5) 会計について

- ・会計校(東海大学)より、東西両部会共同事業である研究叢書 19号とウェブシステム関連諸経費の東西按分表について説明があった。
- ・会計校(東海大学)より、2018年度収支決算書(案)、2019年度収支予算(案)が示され、内容については次回幹事会で検討することとなった。

(6) その他

- ・研究叢書および会報について  
会報担当(國學院大學)より、研究叢書第 19号が発送されたこと、大学アーカイヴズ第 60号が編集集中であることが報告された。

第 181 回 2019 年 4 月 25 日(木)

15 時 00 分～16 時 50 分

会 場 専修大学神田キャンパス

1 号館 13 階 13A 会議室

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學

淑徳大学 専修大学 大東文化大学

帝京大学 東海大学 東京経済大学

日本大学 武蔵野美術大学

明治大学 立教学院

古俣達郎

議 題 (1) 2019 年度東日本部会総会について

- ・部会総会担当(大東文化大学)より、総会当日のスケジュール案が示され、当日の役割分担等を決定した。

- ・会計担当(東海大学)より、2018 年度決算書・2019 年度予算書案が示され、承認された。
- ・事務局(日本大学)より、2018 年度事業報告・2019 年度事業計画案が示され、表記を一部修正の上、承認された。

(2) 2019 年度研究会について

- ・7 月研究会担当(武蔵野美術大学)より、7 月 4 日(木)平和祈念展示資料館での見学を実施する案が示され承認された。当日の 30 周年事業検討ワーキンググループ及び幹事会は立教大学で開催することに決定した。
- ・東日本部会の年間テーマは「大学史資料の活用と公開」に決定した。

(3) 2019 年度全国研究会について

- ・事務局(立教大学)より、全国研究会の日程・内容が確認された。記念講演は、寺崎昌男立教大学名誉教授に依頼することが決定した。
- ・全国研究会テーマは 2017 年度全国研究会と同様に新制大学を取り上げ、「新制大学発足をめぐる各大学の動向—その資料と活用—②」とすることが承認された。
- ・報告者は 4 名とし、事務局から報告者の候補に打診することとなった。
- ・見学は豊島区立郷土博物館・自由学園明日館など立教大学周辺の施設に打診することとなった。

(4) 創立 30 周年記念事業について

- ・事務局（日本大学）より、幹事会の前に開催された創立 30 周年記念事業検討ワーキンググループの内容について報告があった。
- ・30 周年記念シンポジウム報告書については、5 月 16 日校了、27 日納品予定で進めている。東日本部会会員には、部会総会当日に配付する予定。記念講演者の荒川章二氏に校正料を支払うことについて承認された。
- ・ホームページ上における会員校の紹介について、東日本部会は 4 月 16 日、西日本部会は 4 月 25 日に校正が完了した。5 月 23 日に完成、公開予定であることが報告された。
- ・企画展については、展示構成案が示され、展示項目ごとに担当を決定した。展示タイトル案を「新しい大学の誕生—今の大学はどのようにして生まれたのか—」とし、次回までに検討することとなった。展示までのスケジュール等が確認された。

(5) その他

- ・会報担当（國學院大學）より、大学アーカイヴズ第 60 号が刊行されたことが報告された。
- ・事務局（日本大学）より、会員の入退会が無かったことと会員校の担当者変更について報告された。

- ・事務局（日本大学）より、アート・ドキュメンテーション学会の後援依頼が示され、後援することが承認された。

第 182 回 2019 年 5 月 30 日（木）  
12 時 45 分～13 時 30 分

会 場 東京経済大学国分寺キャンパス  
大倉喜八郎進一層館  
地下 1 階会議室

出 席 学習院 神奈川大学 淑徳大学  
専修大学 大東文化大学 帝京大学  
東海大学 東京経済大学 日本大学  
武蔵野美術大学 立教学院

議 題 (1) 2019 年度東日本部会総会について

- ・事務局（日本大学）より、部会総会のタイムテーブルと担当者の確認がなされた。

(2) 2019 年度研究会について

- ・事務局（日本大学）より、研究会の担当が確認された。

(3) 2019 年度総会・全国研究会について

- ・事務局（日本大学）より、2019 年度総会・全国研究会のスケジュール等について報告がなされた。全国研究会では、4 つの報告を予定し、報告者の選定を、西日本部会にも依頼をしながら、事務局で調整することが確認された。

(4) 創立 30 周年記念事業について

- ・30 周年記念シンポジウム報告書

については、部会総会で配布予定  
であることが報告された。

- ・ホームページ上における会員校の  
紹介については、作業の進捗状況  
について報告がなされた。
- ・企画展については、構成案、会員  
校へ依頼するアンケートフォー  
ム、作業工程について報告がなさ  
れた。

(5) その他

- ・事務局（日本大学）より、会員の  
入退会について報告がなされた。

第 183 回 2019 年 7 月 4 日（木）

12 時 00 分～13 時 30 分

会 場 立教大学池袋キャンパス

5 号館第 1 会議室

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学

専修大学 大東文化大学 東海大学

東京経済大学 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学 立教学院

議 題 (1) 2019 年度総会ならびに全国研  
究会について

- ・事務局（立教学院）より、総会な  
らびに全国研究会のスケジュール  
と役割分担、報告者について確認  
がなされた。

(2) 2019 年度研究会について

- ・事務局（立教学院）より、今年度  
の研究会の担当について確認がな  
された。また、担当（帝京大学）  
に代わり、12 月の研究会を電気  
通信大学で開催することが報告さ

れ、了承された。

(3) 創立 30 周年記念事業について

- ・担当（専修大学）より、創立 30  
周年記念シンポジウム報告書の発  
送状況について報告がなされた。  
また、講演者等に許可を得た上で、  
HP において公開することが確認  
された。

- ・担当（日本大学・明治大学）より、  
HP 上における会員校紹介ページ  
について、概ね順調に進んでいる  
が、検索機能が一部機能していな  
い問題があり、予算内で調整をす  
る予定である旨が報告された。

- ・担当（立教学院）より、企画展の  
準備状況について報告がなされ  
た。今後は、会員校へ実施したア  
ンケートの回答を基に、WG を開  
催しながら進めていくことが確認  
された。

(4) その他

- ・事務局（立教学院）より、会員の  
入退会について報告がなされた。
- ・次回幹事会を、9 月 26 日（木）  
に立教大学で開催することが確認  
された。

第 184 回 2019 年 9 月 26 日（木）

15 時 00 分～17 時 00 分

会 場 立教大学池袋キャンパス

5 号館第 1 会議室

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学

大東文化大学 東海大学

東京経済大学 日本大学  
 武蔵野美術大学 明治大学  
 立教学院  
 古俣達郎

議 題 (1) 2019 年度総会ならびに全国研究会について

- ・事務局（立教学院）より、2019 年度総会ならびに全国研究会の日程、出欠状況、オブザーバー参加について確認がなされた。

(2) 創立 30 周年記念事業について

- ・担当（立教学院）より、創立 30 周年記念展の準備について、概ね予定通り進んでいるが、図録の刊行は少し遅くなる旨の報告がなされた。また、図録を含めた制作費は、280 万円程度を見込んでいることが報告された。

(3) 2019 年度研究会について

- ・12 月研究会担当（帝京大学）に代わり、事務局（立教学院）より、UEC コミュニケーションミュージアム（東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1）において開催することが報告された。
- ・1 月研究会担当（淑徳大学）より、いくつかの候補で検討しているが、千葉経済大学「地域経済博物館」で調整をしていきたいとの報告がなされた。
- ・3 月研究会担当（神奈川大学）より、研究報告の形を検討している旨の報告がなされた。

- ・2020 年度の部会総会担当（古俣氏）より、法政大学を会場に、講演及びキャンパス内の見学を予定している旨の報告がなされた。

(4) その他

- ・事務局（立教学院）より、会員の入退会について報告がなされた。
- ・担当（明治大学）より、ウェブサイトサポート契約を 9 月末で終了することが提案され、了承された。
- ・叢書・会報担当（國學院大學）より、会報第 61 号を 10 月末に刊行予定であること、研究叢書第 21 号の編集に着手することが報告された。
- ・会計委員（東海大学）より、年会費の納付状況と、30 周年記念事業関連経費の会計状況について報告がなされた。これをうけて、展示制作費については、東日本部会から 140 万円の支出が可能であることが確認され、了承された。

全国大学史資料協議会

東日本部会研究会記録

第 114 回 2019 年 3 月 14 日（木）

14 時 30 分～16 時 30 分

会 場 帝国データバンク史料館

出 席 お茶の水女子大学 学習院

神奈川大学 國學院大學 淑徳大学

専修大学 拓殖大学 帝京大学

東海大学 東京経済大学  
東洋英和女学院 東洋大学  
日本大学 法政大学  
武蔵野美術大学 明治学院  
明治大学 明星大学 立教学院  
早稲田大学  
阿部伊作 古俣達郎 藤田茂  
細見大作 松田栄作

以上 33名

会長挨拶 村松 玄太氏

(明治大学史資料センター)

司会 渡邊 卓氏

(國學院大學研究開発推進機構)

講演 高津 隆氏

(帝国データバンク史料館館長)

「帝国データバンク史料館のこれまでとこれから —企業ミュージアムの役割と使命にも触れながら—」

見学 帝国データバンク史料館

(解説：福田美波学芸員)

〔概要〕 本研究会では、会長校である明治大学村松氏より挨拶がなされた後、帝国データバンク史料館館長の高津隆氏より「帝国データバンク史料館のこれまでとこれから—企業ミュージアムの役割と使命にも触れながら—」と題した講演を頂いた。内容は、帝国データバンク史料館の設立の経緯と、活動の紹介、成果と課題など交えて企業博物館の社会的役割についてなど、多岐に渡った。同館の設立にあたっては、その設置コンセプトを「保存する史料館」「協力

する史料館」「開かれた史料館」とし準備を進めたこと。展示の「双方性」を狙って映像やVRを使った展示を導入したこと。さらに課題として同館の特色である企業の信用調査報告書をどこまで公開が可能かということ。最後に、企業ミュージアムの役割と使命として企業の歴史と文化を活かして社会の力をパワーアップさせるプラットフォームとして公共性を高めることが必要であり、そのための人材育成や組織体制の強化が課題であるとして講演が締めくくられた。その後、帝国データバンク史料館の展示室へ移動し、同館学芸員の福田美波氏より展示の解説を頂いた。信用調査と帝国データバンクの歴史に関する説明とあわせて、史料館の展示手法についても詳しくお話いただいた。見学後は、高津館長、福田学芸員を交えた質疑応答の時間が設けられ、闊達な意見交換が行われた。(堀越峰之)

第115回 2019年7月4日(木)

14時30分～16時30分

会場 平和祈念展示資料館

〒163-0233 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル33階

出席 お茶の水女子大学 学習院

淑徳大学 神奈川大学 専修大学

創価大学 拓殖大学 中央大学

東海大学 東京経済大学

東京農業大学 東邦大学  
日本女子大学 日本大学 法政大学  
武蔵野美術大学 明治大学  
明星大学 立教学院  
古俣達郎 林慎一郎 松田栄作  
齊藤浩次

以上 28 名

見学 平和祈念展示資料館見学  
(学芸員による展示解説)

〔概要〕 平和祈念展示資料館は、さきの大戦における、兵士、戦後強制抑留者および海外からの引揚者の労苦について、国民のより一層の理解を深めるために 2000 年 11 月に、総務省委託により開館した施設である。今回の研究会では、同館学芸員の方より、常設展示と企画展示のご案内をいただいた。常設展示は兵士コーナー、戦後強制抑留コーナー、海外からの引揚げコーナーの 3 つに分かたれている。兵士コーナーでは、ほとんど現存しないと言われる臨時召集令状（赤紙）の現物をはじめとする貴重資料、映像資料を見学した。戦後強制抑留コーナーでは、シベリアをはじめとする旧ソ連やモンゴルの地において、戦争終結後も、強制労働に従事された人々の資料や収容所のジオラマ展示を実見した。また海外からの引揚げコーナーでは、戦後引揚げの過酷な実態について資料や引揚船ジオラマをご案内いただいた。企画展「南洋からの引揚げ展—

玉砕の島で生き抜いた移民たちの記録」はサイパン島スツペ収容所の写真を中心に、満州（現・中国東北部）などとは様子が異なる南洋群島からの引揚げについて、貴重な資料とともにご紹介をいただいた。その他、情報メディアコーナー、体験コーナーなどの付帯施設の見学も行った。（村松玄太）

## ご案内

全国大学史資料協議会および同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

### 【立教学院 立教学院展示館】

〒 171-8501

東京都豊島区西池袋 3-34-1

☎ 03-3985-4841

### 【日本大学 企画広報部広報課】

〒 359-0003

埼玉県所沢市中富南 4-25

☎ 04-2996-4555

## 会報編集

### 【國學院大學 校史・学術資産研究センター】

〒 150-8440

東京都渋谷区東 4-10-28

☎ 03-5466-6677